



宇宙人に攫われた私たちは
人間牧場で
飼われて孕まされる

絶滅保護計画
Re

50p





絶滅
保護
計画
Re

宇宙人全裸おれた私たち
人間牧場で
飼育されて孕まされる



楽しみだね

宇宙

伊藤香菜

無重力ってなんか怖そう

体験時間も
そんなに長くないから

大丈夫だよ

田辺 美由紀

佐倉 怜子



うるさいな!

丹川 和樹

狙ってんの
バレバレでキモイって

武藤
お前伊藤の事
見過ぎだぞ

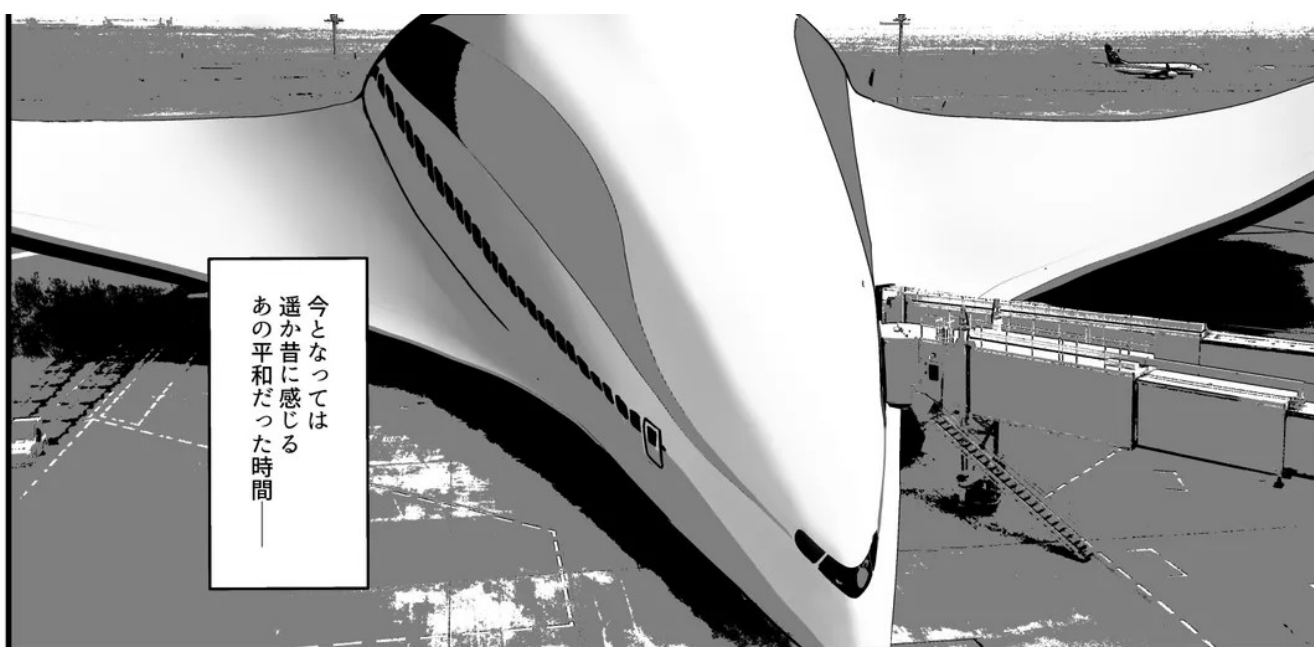
武藤 健











絶滅保護計画Re

宇宙人に攫われた私たちは人間牧場で飼われて孕まされる



全滅しました

人類は
宇宙人の攻撃により



突然ですが



その時

偶然宇宙に出ていた
わたし達を残してー

わたし達
どうなるの？

おかあさん...

まさか彼らが
知的生命体だったとはー

この子達を
保護していなければ
絶滅させるところだった

修学旅行で
スペースクルーズなんて
止めとけばよかったのよ

シャトルごと
捕まるなんて

地上はどうなったの？

そんなの
わかんないよ



マジかよ

我々の手で
繁殖させよう

お腹が...

酷い....!

若い個体ばかりで
幸いだっただ

あれ先生と
乗務員だろ!!

さつきまで
一緒にいただろ



個体数を戻す
手助けが必要だ

彼らの構造は
把握している







人間牧場を作ったのです

そして
宇宙人たちは

わたし達を
効率よく繁殖させるため



うっひょう
気持ちいい!

これだけ
ケツが並んでたら

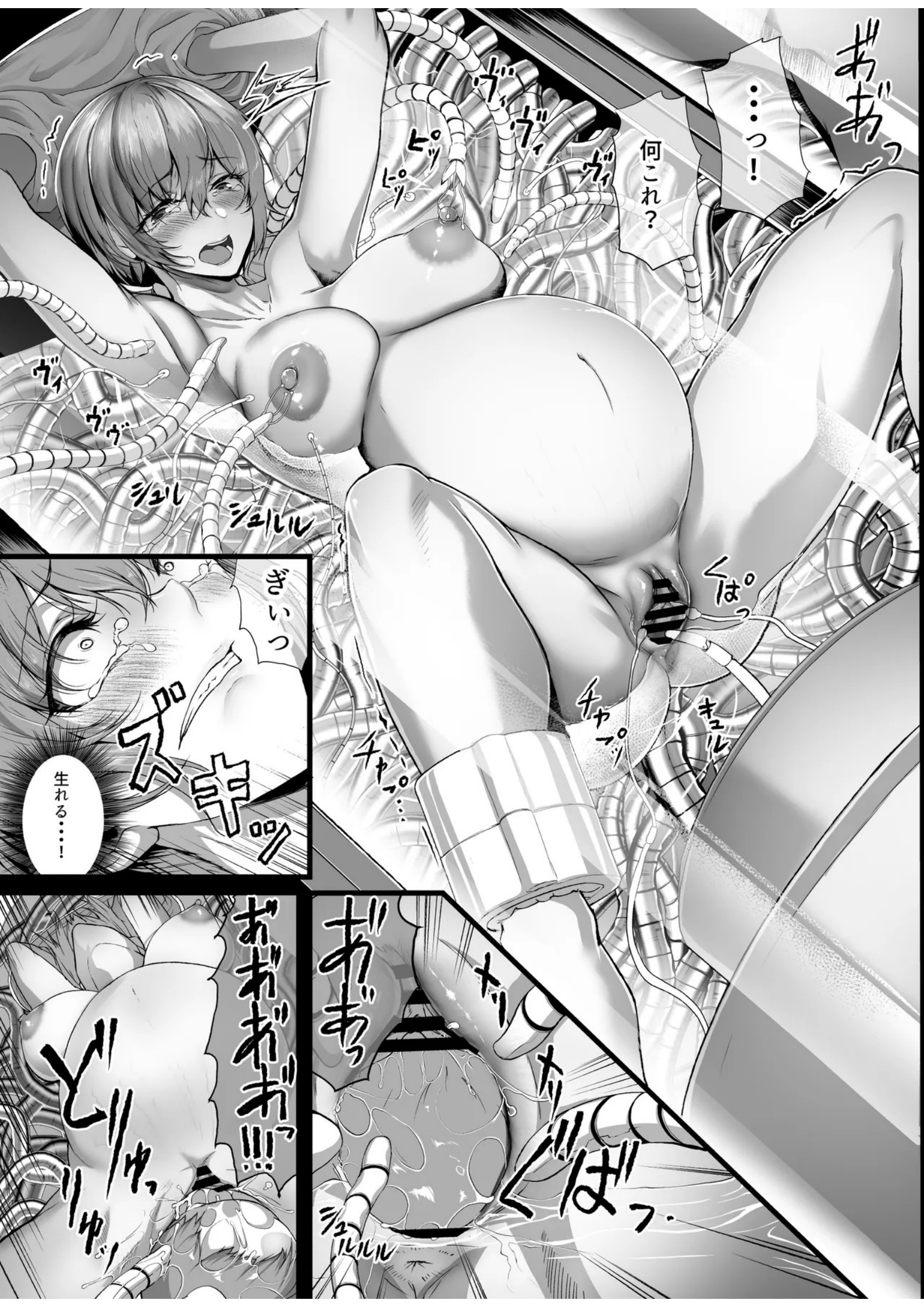
たまんねえな!

ずっと雌穴
ほじってたいぜ









おおっ

...っ!

何これ?

ゴッ
ゴッ

グッ
グッ

グッ

グッ

グッ

シユル

シユル

くはっ

チャッ
チャッ

キュル

チャッ
チャッ



ちゅっ

ズキ
キ

生れる...!



おおおお!!!



お

お

は

シユル

産まれた！

すばらしい
成功だ！

母体の
損傷が著しい

すぐに
回復させねば

分娩カプセルも
改良が必要だな

す
る...

うう...
んぎ...

んぎゃあ
あわあ
おぎゃあ
ああ!!!

新生個体が
自発呼吸を始めた

保育器へ急げ

この声

産まれた...
の...?

えっ...
どこへ
連れて行くの？

待って
私の赤ちゃん...!

お疲れ様

まっ—

今は休みなさい

これが私の
初めての出産でした





いぎいぎ!!

痛い!!

ひきこい!!

ズッ

ズッ

ぐちゃぐちゃ

何これ

お腹のなっ
ごぼおオオオ

身体が熱い……!

かきまわさ

なごほほほ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ







その頃の
男子たちはと言うと...

ゴッ...

ゴッ...

嫌だああ!!

ああああ!!

精液工場に繋がれて
どれだけ経った?

延々と射精させられて
時間の感覚まで...

ゴッ...

ゴッ...

ゴッ...

おっお!!

またまた...







やっぱ伊藤の
まんこはいいわ
他の女はとっくに
ガバマンになつてゐるによ

あいつら犯しても
リアクションすら
ねえもんな

あーっ
出る！

おらっ
お口が留守だぞ！



あんまり奥まで
突っ込むなよ
それやって前
他の女が死にかけただろ

それが
どうしたよ



息が出来ない...

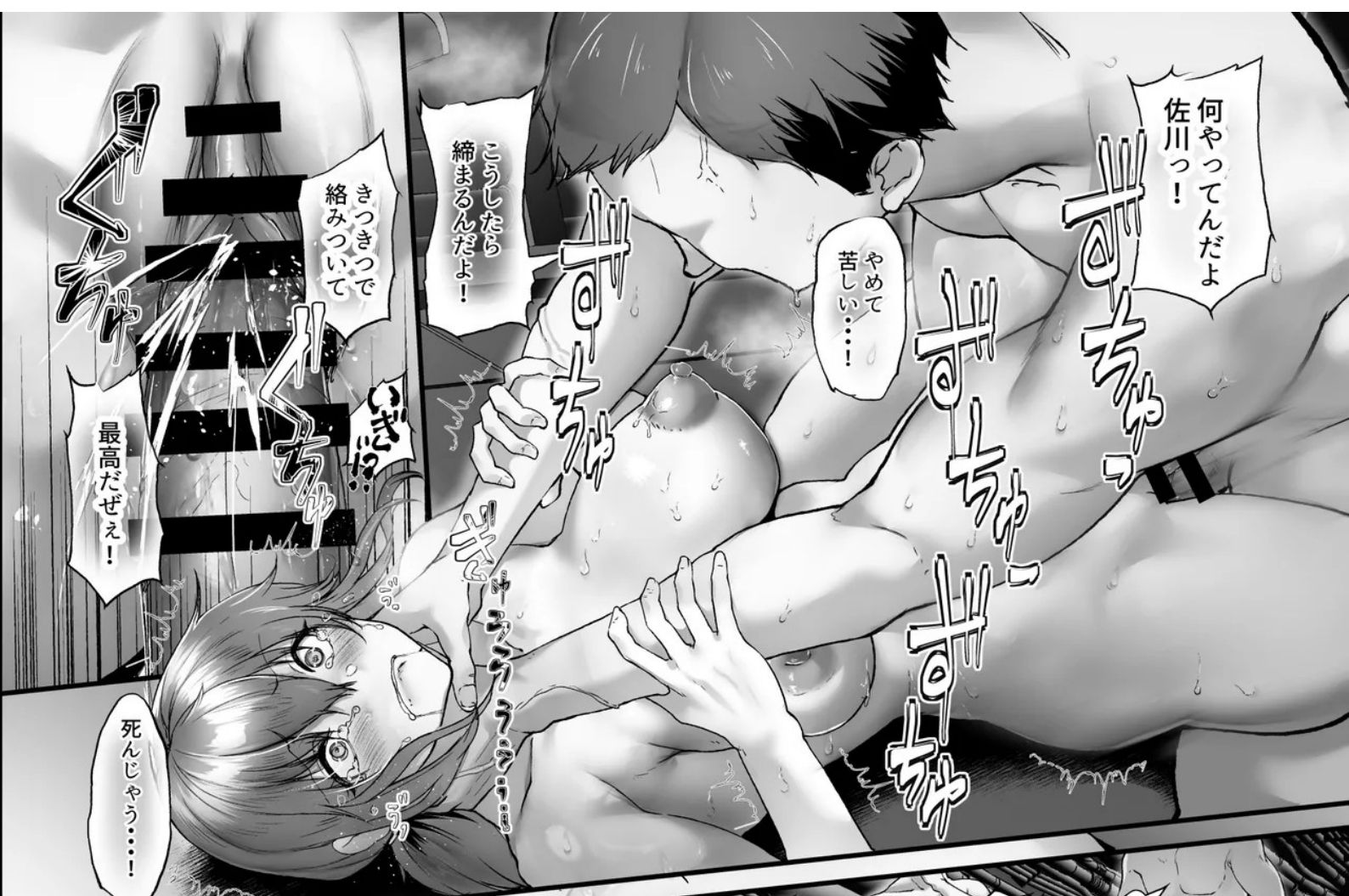


しっかり飲めよ！

んぐらッ







何やってんだよ
佐川っ！

やめて
苦しい……

こうしたら
締まるんだよ！

きつきつで
絡みついて

最高だぜえ！

死んじゃう……！



やめろよ佐川

本当に死にまうぞ

うるせえ！

どうせ
本当にやばくなったら
奴らが来て止めるだろうよ！

お前らも
早川と佐倉で
試してみろよ

あーっ
出る！



これが効率的な繁殖場
○○なるものか

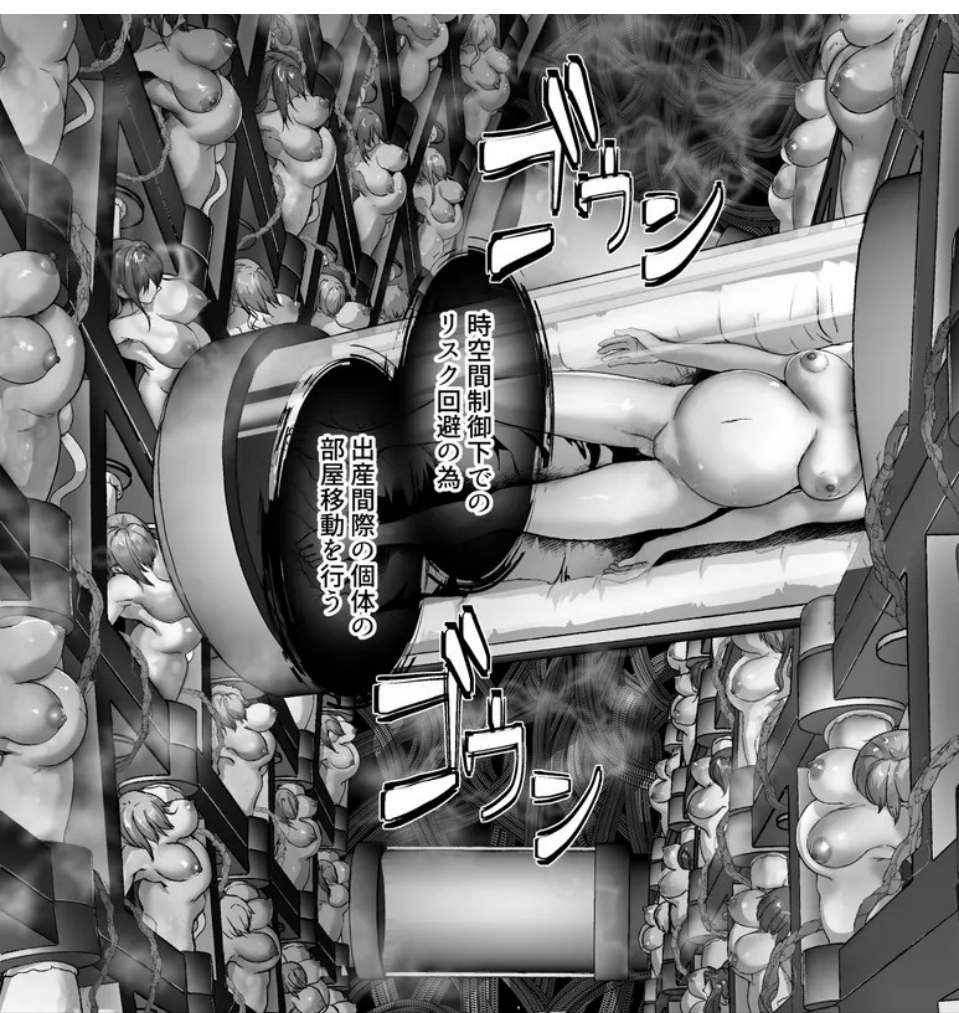
そうだ

『人間牧場』の完成だ

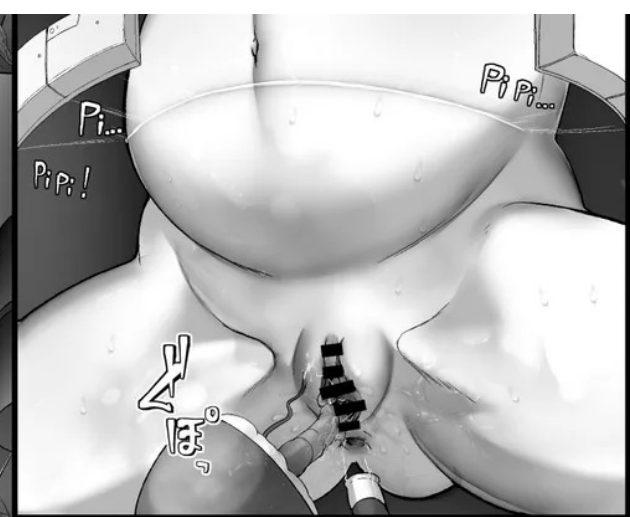
これでようやく

完全自動で生殖から
出産までを管理できる





時空間制御下での
リスク回避の為
出産間際の個体の
部屋移動を行う



これは一体...?



人間牧場の
整備は出来たが...
生まれた個体の
教育はどうする?

繁殖だけさせて
終りというわけには
いくまい?



任せよう



それについては
私に考えがある





さん

伊藤さん

誰…?



はじめまして
「伊藤香菜」さん

驚かせてすまない

私は
「宇宙人」だ

今は直接君の
魂に騙りかけている

この姿は
君のイメージから
拝借した

あっ…

服分…

あの…

聞きたい事が
沢山あるのは承知している

だがまずは

謝罪を

君たちを
滅ぼしたことについてだ



我々は
「宇宙の免疫」だ

宇宙に湧く
『病原菌』を駆除している

奴らは魂を持たず

いたずらに
星を食い尽くし
空間を腐らせ

魂だけの存在である
我々すら侵食する



君たちの星を攻撃したのも
駆除の一環だ

観測では
この星に魂は
存在しないはずだった

それなのにだ

攻撃の瞬間
無数の魂が宇宙に霧散した

肉体という器が壊れ
内包されていた魂が
初めて観測出来たのだ



こうして対話できることが
何よりの証拠だ

すまない事をした



その時我々は気付いた

君たちが我々と同じ
『魂』を持つ存在なのだ



だから出来得る限り
自然繁殖で増やすことにした

生物を効率よく繁殖させる方法は
君たちの記憶を辿って学んだんだ

品種改良という概念もね



次は…

君たちを
『飼育』している事に
ついてだね

私たちも君たちに
苦痛を与えないよう
肉体の複製を考えたん

しかしそれでは
肉体に魂は宿らなかった



君たちの
妊娠期間の長さは
増殖の課題だったからね

時間制御と
併用する事にしたんだ

結果は上々だ
子供たちの
世代差も解消できる



君たち
最初の世代には

寿命の延長と
妊娠期間の短縮

この2つの
改良を加えてある



いつまで…

?

いつまでこんな事を
続けるんですか？

もちろん
君たちの数を取り戻すまで

と言っても
先ずは文明を維持できる
最小単位が揃うまでだ



安心して欲しい

もうすぐ
君たちの子供と繁殖個体を使った
生産プラントも完成する

君たちの負担も
少しは減るはずだよ



もう時間か
長話は君の魂に
良くないからね

待って！

では
また話せるのを
楽しみにしているよ

まだ
聞きたいことが――

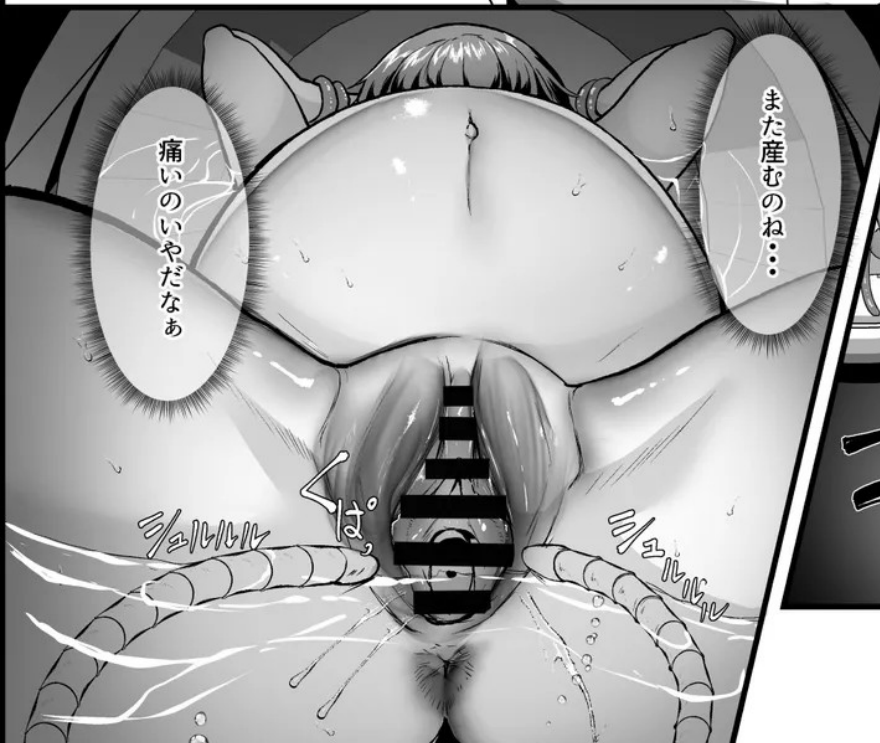


何故私に
そんな話を……？

もちろん
君に協力して貰う為だ

我々は
あまりに無知なのだ

どうか知恵を貸して欲しい





一方
私たちに乱暴した
佐川君たちは――

クソが!!

ギチ

ギチ

はなせ!!

ギチ

はなせってんだよ!

女どもで遊んで
何が悪いんだよ!

がばっ

お前らだって
散々殺しただろうが!

人間を……!

俺の……

家族を……!

やめろ!

変なもの突っ込むな!

すっ

ボッ

すっ

ぼっ

ズズズズ

ひっ

すっ



俺は殺されるのか？

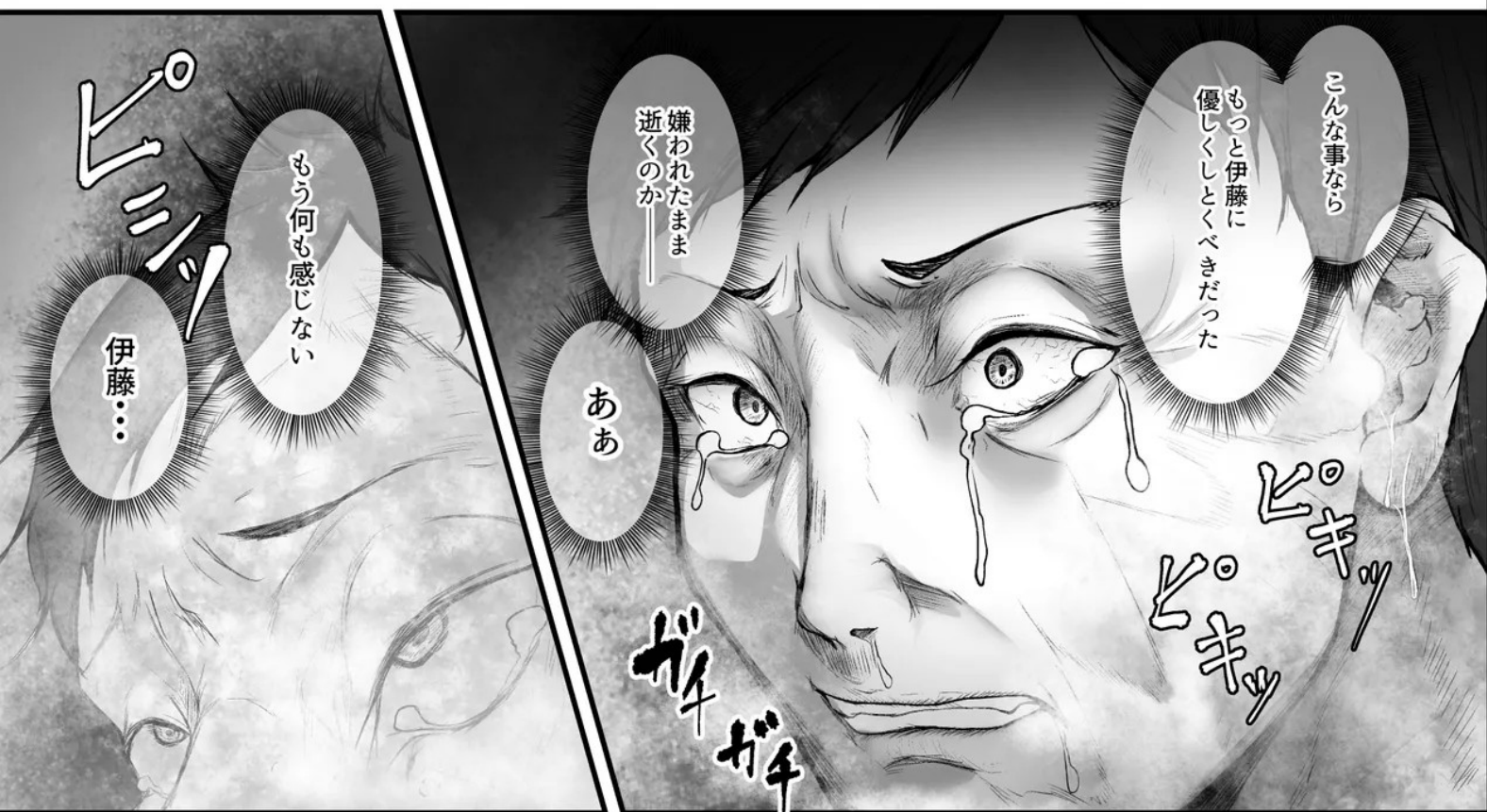
ちくしょう…

こんな事で…

じわっ

キキッ

うっ!?



こんな事なり

もつと伊藤に
優しくしとくべきだった

嫌われたまま
逝くのか

ああ

もう何も感じない

伊藤…

ガッ
ガッ

ビキッ
ビキッ



危険個体「佐川流」の
凍結——完了

保存に移行する

少々手荒な方法だったが
致し方ない

この個体も
この個体に攻撃される個体も
両方守るには最善だった

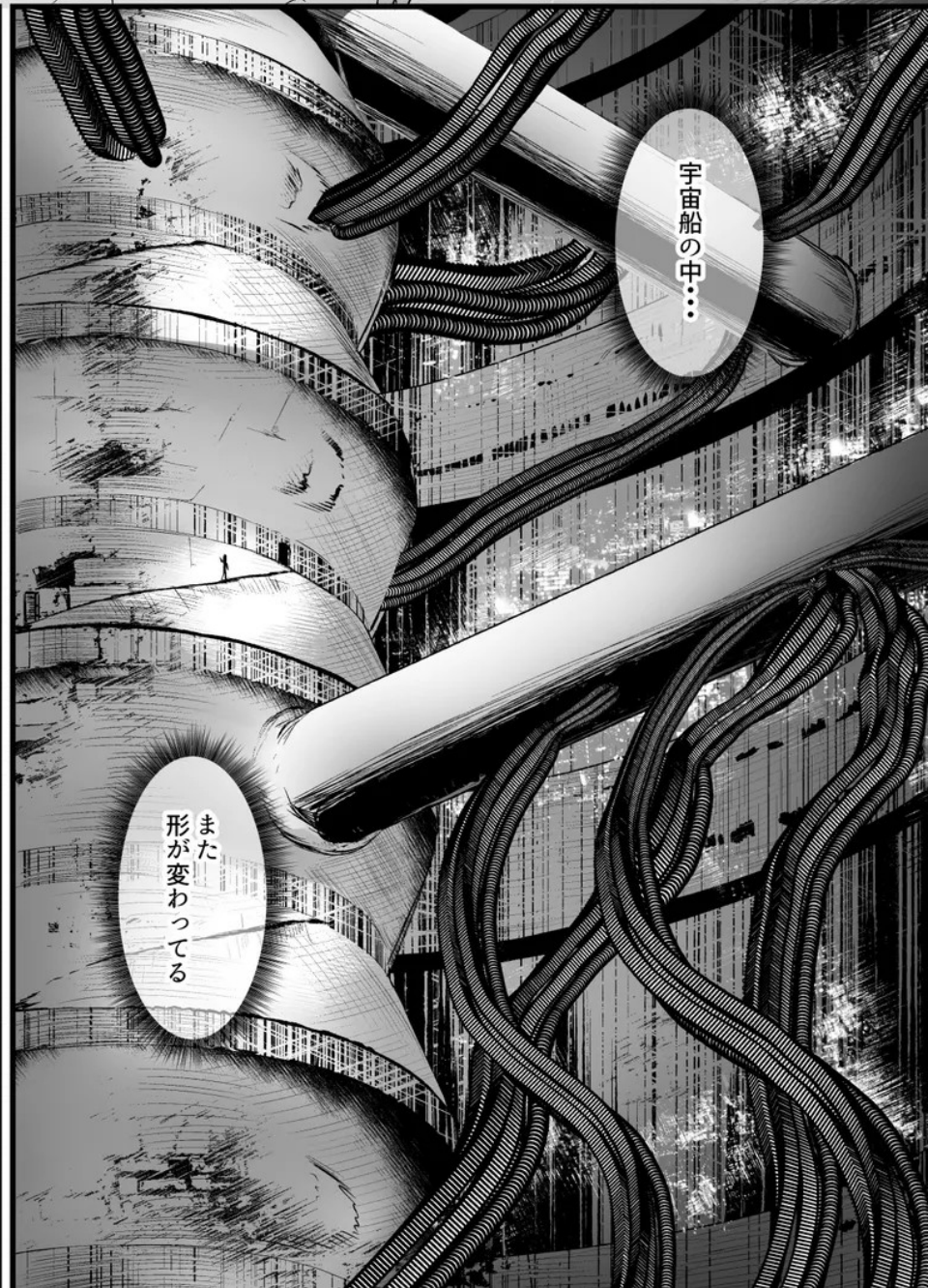
保護は優良個体「伊藤」の
たつての願いでもある

何故だ

彼女は被害者だろう

彼女の思考も
我々の理解を超えてる

この生物としての
我々は更に学ばねばならぬ







そういうものを見せないといけないんだと思う

本当のSEXとか

人間の感情とか

宇宙人は何も知らないから...

本気だよ



はっ...

ぐい

どきどき



じゃあ...

嫌?

嫌なわけな...っ



それとも

何度も子供産んでる身体じゃ...



優しくしてね?







ああああっ！
あああ！！

出る！！

出る出る出る

はっ

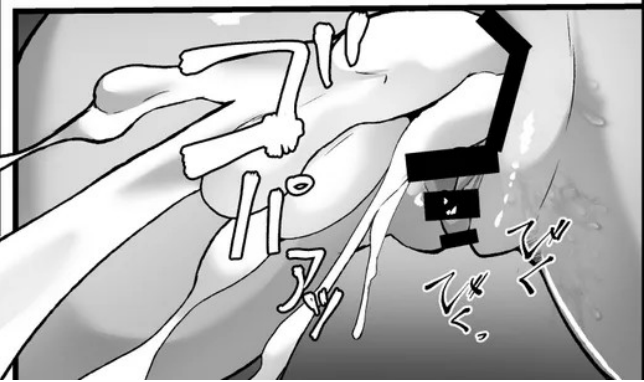
どくどく
どくどく
どくどく



多分
またあの部屋に
戻されるんだろうな

そうだね...

すげえ量...





あっ

でも
武藤君の子
妊娠したら

妊娠部屋に
行かなくて済むかも

前向きにならなきゃ

生きていかないと
いけないでしょ？

伊藤…

前向きだな…

伊藤と会えなきゃ
俺だって狂ってたよ

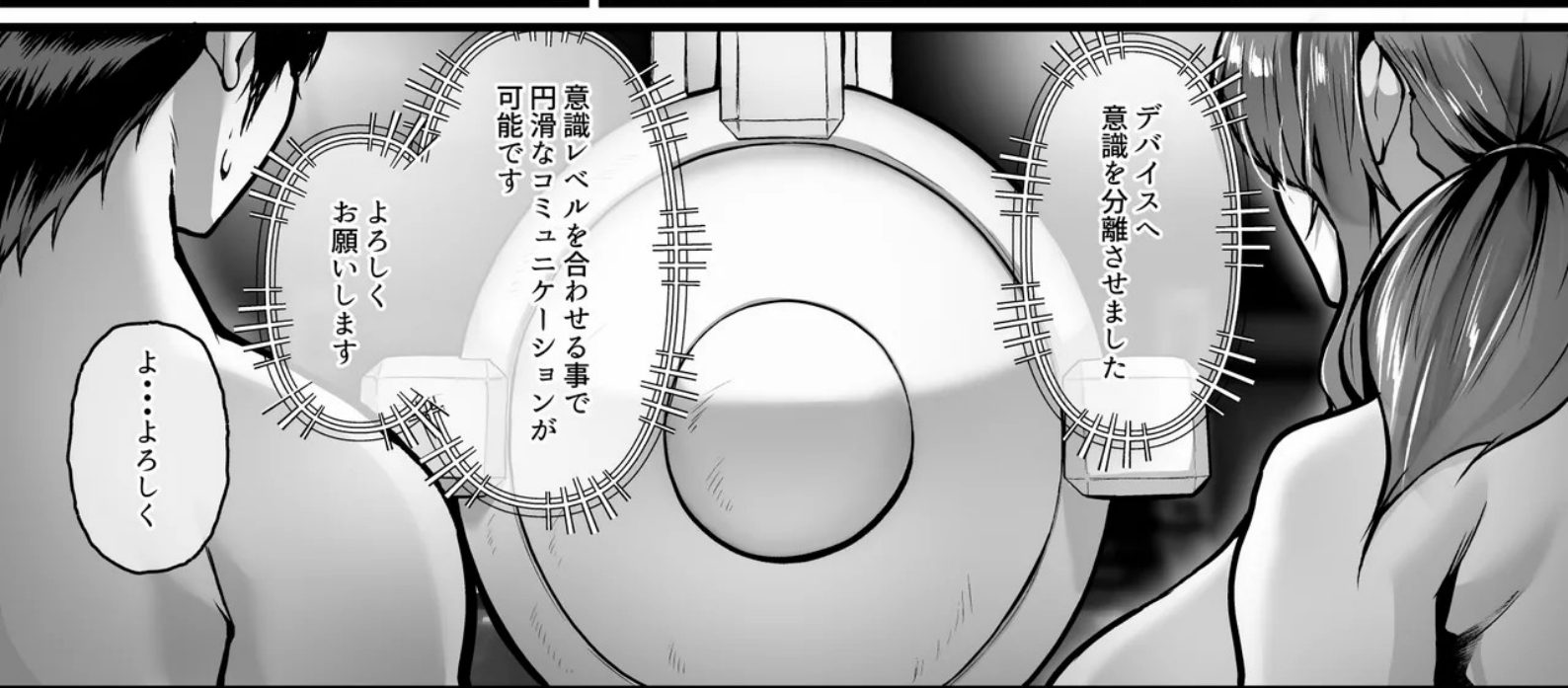
そういえば
私の最初の赤ちゃん

武藤君の子なんだって

ほんとか!?

喜んでくれるんだ

当たり前だろ!?





...

また時間が過ぎてる

武藤君はあつちで
いい夢見れてるのかな

これでもう
何度目の出産だろう

この痛みと不安は
いつまでも慣れないな

おおおおっ



うぐうううあああ!!

茜ちゃん...?

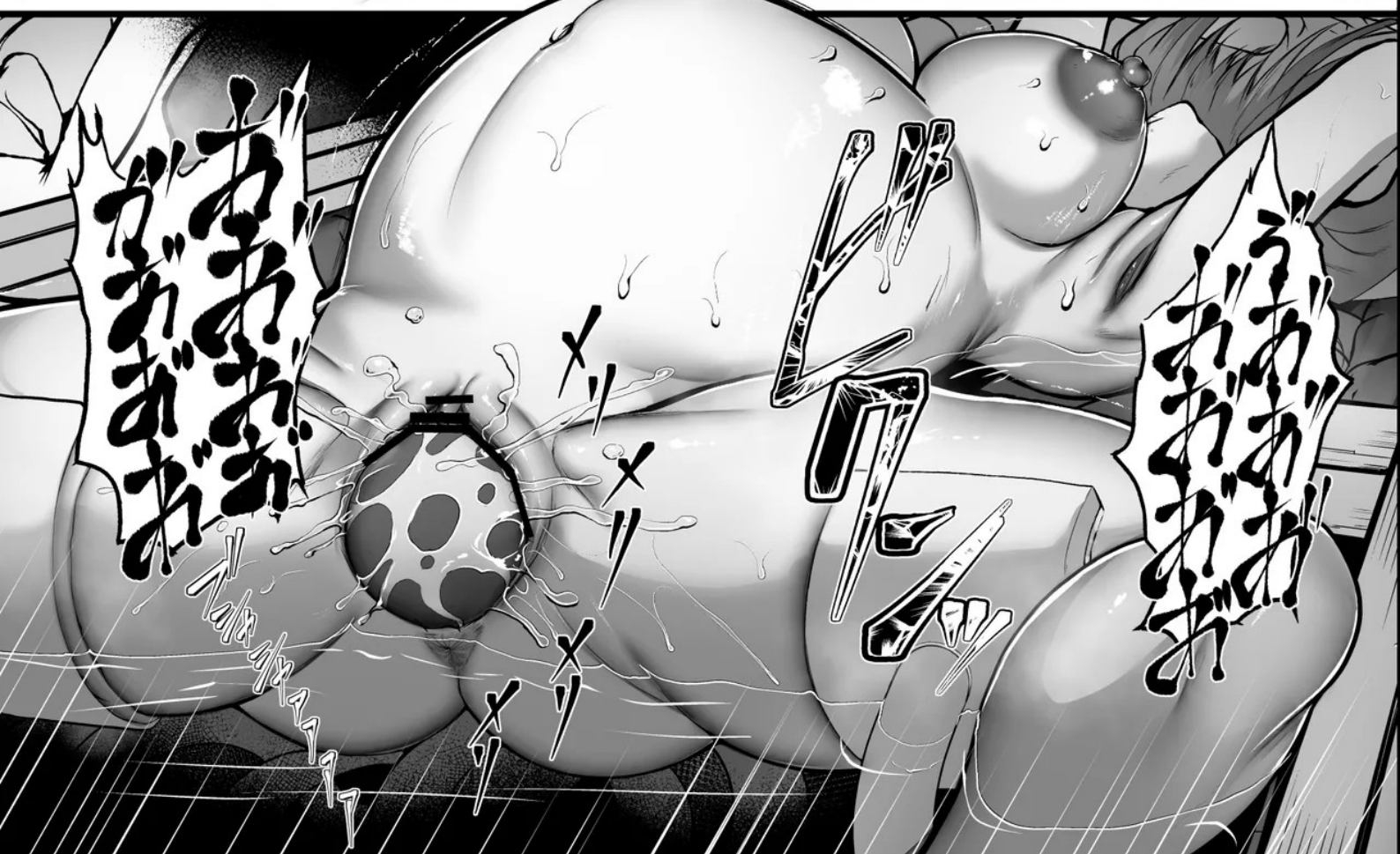


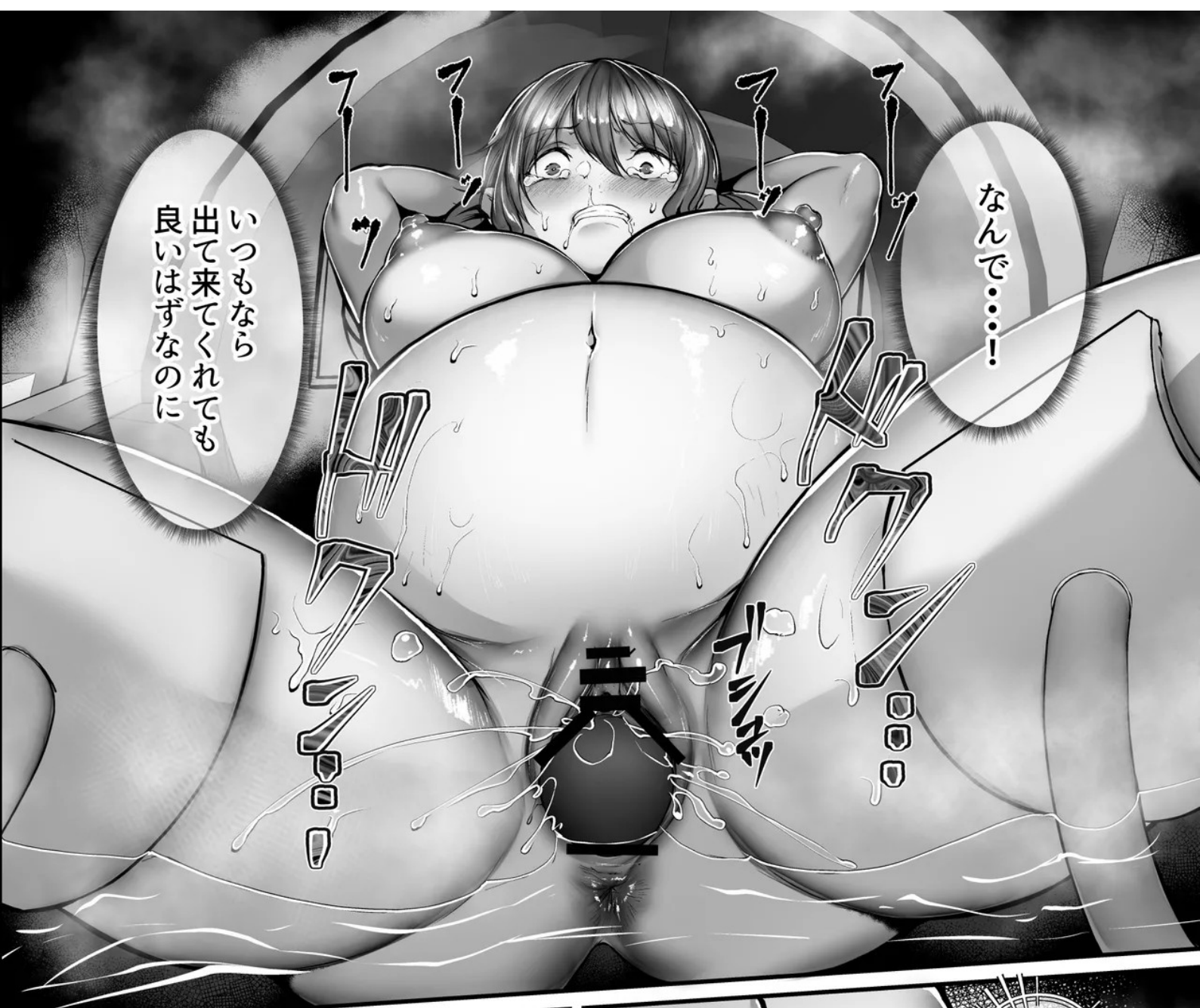
それでも
ここに来た頃の
私が見れば

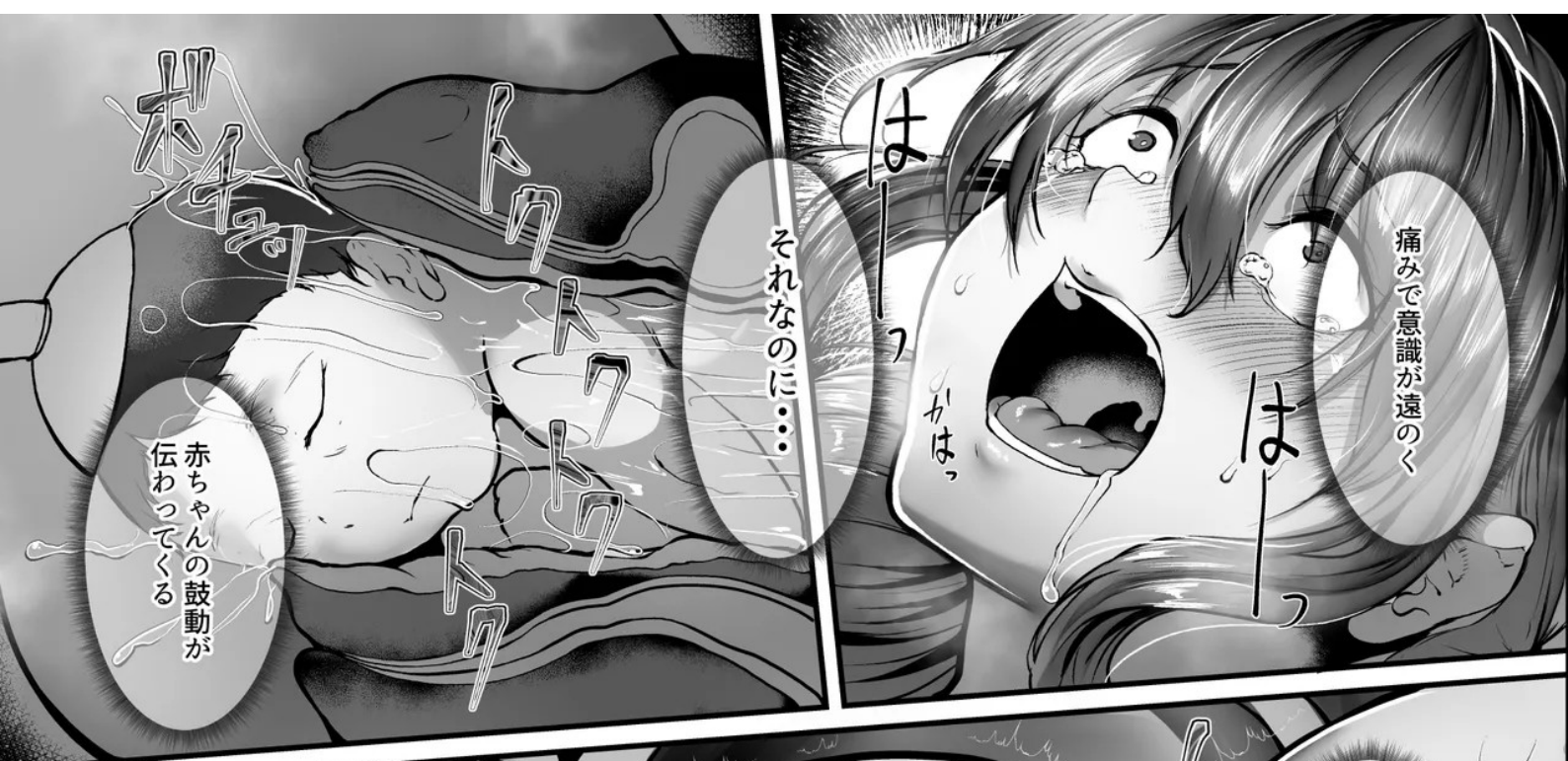
運命を受け入れている
私自身に驚きそう













はーっ

頭が出た...!

ぼん

あともう少し...!

すりり

すりり

すりり

お

ちゅろ...

すりり

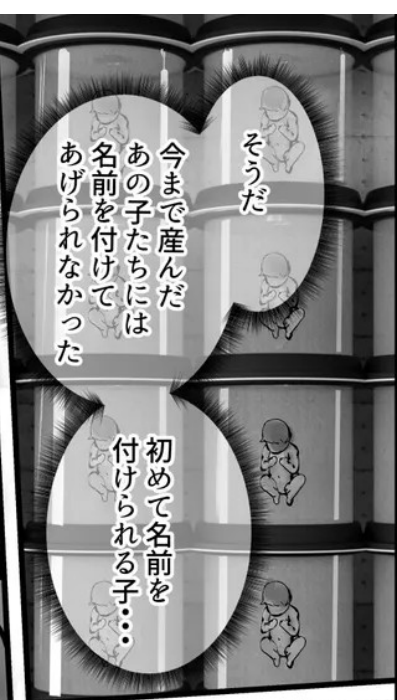
あーあーあー

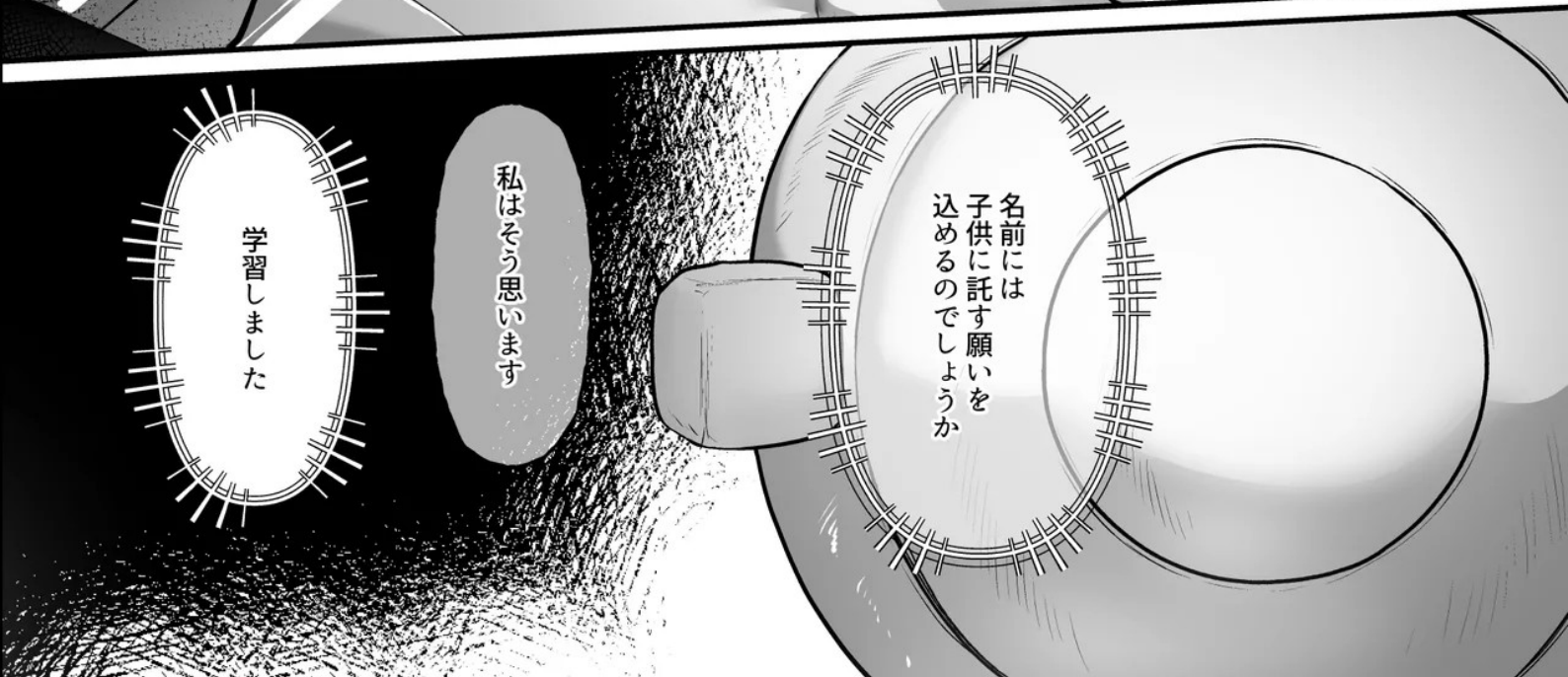
はー

はー

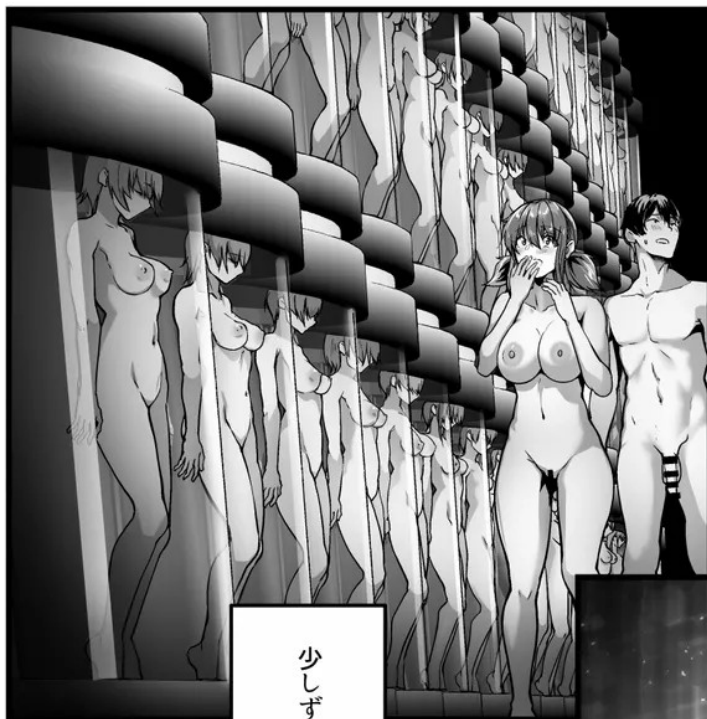








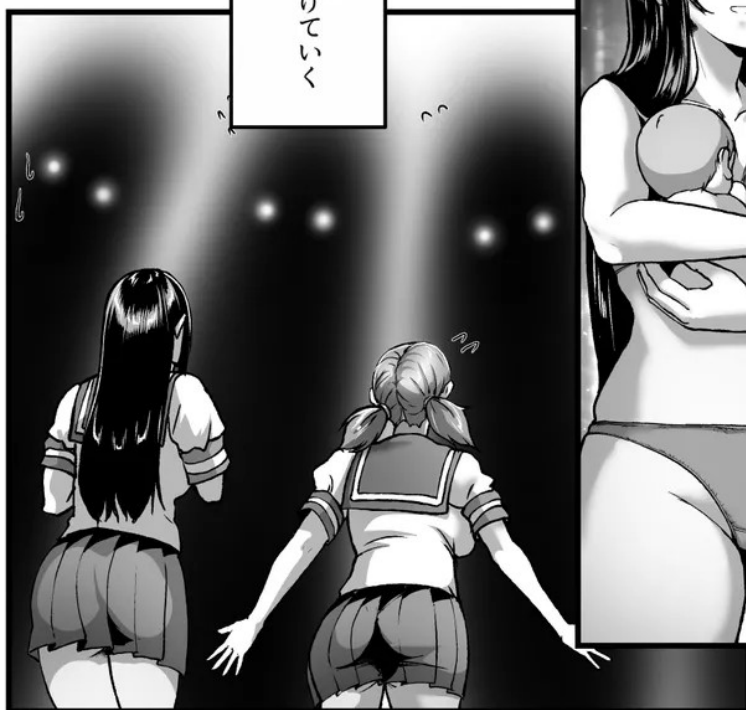




少しずつ変貌を遂げていく



この後人間牧場は



胸がキツイ

月日は流れて…

そして

あとがき

この度は作品を手にとって頂き誠にありがとうございます。

nohitoと申します。

この作品は11年前にKTC様発行のコミックアンリアル別冊アンソロジーに収録された私の作品「絶滅保護計画」のプロットをベースに、当時描き切れなかった描写や追加設定、Hシーン等を追加したオリジナル作品です。

因みに大本の設定は私が中学生の時に悶々と妄想していたエロ設定が元になっています。

当時図鑑や保健体育の本を模写したりして描いた妄想絵は親に見つかって

叱られるたびにねっちなねっちなと擦られ続ける事になりますが、それはまた別の話・・・

そんな内容になっていますが、大人になった自分が精一杯脚色して描き上げたので皆様の視線に少しでも触れることが出来れば嬉しいです。

最終ページでも触れた通り今作で描く人間牧場はこの後も形を変えていきます。

続編として牧場で飼われている意識が殆ど無くなった世代のお話を準備していますので、もし機会がありましたらまた読んでいただければと思います。

それではまた次回作でお会いしましょう。

nohito

絶滅保護計画Re

～宇宙人に攫われた私たちは人間牧場で飼われて孕まされる～

発行日 2025年4月25日

発行者 nohito

連絡先 thermit.nohito@gmail.com

本作品の無断複製・転載、インターネットへのアップロード、AI学習を禁止します。